

令和6年度 政経学部奨学論文

「選挙ポスターの表情が得票率に与える影響について

ー2024年衆議院議員総選挙ー」(3行以内)

・キーワード(3点)

1.表情	2.重回帰分析	3.統計
------	---------	------

・執筆代表者

学年	学 科	学生番号(10桁)	氏 名
4	経済	G141022021	井上 凜

・共著者

学年	学 科	学生番号(10桁)	氏 名
4	経済	G141762021	木村 水音

・指導教員

指導教員名	指導教員メールアドレス(半角で記入)
浅野 正彦	asanoucla@gmail.com

《 目 次 》 (様式自由)

1. はじめに
2. 先行研究
3. 仮説の提示
4. データ
5. 分析結果
6. 結論と今後の展望

Appendix

《要約》(様式自由、400 字以内)

本論は、選挙ポスターの表情が得票率に与える影響について実証的に分析をおこない、その影響力の大きさを考察するものである。現代において「外見」は非常に重視される要素であり、それは政治の場においても例外ではないとされている。本論では 2024 年衆議院議員総選挙の選挙結果と、日本全国 289 の小選挙区に設置された 1071 名の立候補者の選挙ポスターの表情を表情解析ソフトを用いて定量化したデータを結びつけ、両者の関係性を重回帰分析を用いて検証を試みた。検証の結果、年齢が若いほど候補者の顔が真面目な表情のほうが得票を得られることがわかり、反対に年齢が高いほど候補者の顔が笑顔であるほうが得票を得られることがわかった。本論の結果をもとに 2024 年衆議院議員総選挙に出馬した一部の候補者同士を比較し、選挙ポスターが選挙結果に及ぼす影響について考察した。

<ここから本文>

1. はじめに

近年では「ルッキズム」と言われる外見のみを重視して人を評価・差別する言葉が SNS や書籍などで頻繁に取り上げられるようになった。より身近な言葉で言い表すなら、「外見至上主義」だといえる。外見とは他者から見た私たちの印象である。SNS の普及により、「映える」ことを意識する人々が増え、外見の魅力が職場や日常生活、さらには政治の場においても大きな影響を与えるといえる。

例えば、Hamermesh ら (2005) の研究では、外見が「魅力的」とされる人々が平均して 10~15% 高い収入を得る傾向があることが示されている。また、Quand (2019) らの研究では外見が魅力的な政治家が選挙でより高い得票率を得る可能性があることを明らかにしている。このように私たちが他者の外見に注目することは、無意識の偏見を助長する一方で、公平性や多様性を求める議論と関連している。政治の場においても、候補者の外見や表情が選挙結果に影響を及ぼしている可能性は無視できない。では実際に日本の政界では候補者の「外見」がどれだけ選挙結果に影響を与えているのだろうか。

本論文では、2024 年の衆議院議員総選挙における小選挙区立候補者の顔の「表情」と「得票率」の関係を分析している。具体的には、立候補者の表情が得票率にどのような影響を及ぼすのかを実証的に検証し、その関連性を明らかにすることを目的としている。ここでの候補者の「表情」とは、選挙ポスターの候補者の顔の「笑顔度」と「真顔度」のことであり、FaceReader という表情解析ソフトを使って計測したデータを使用している。

分析の結果、年齢が若いほど候補者の顔が真面目な表情のほうが得票を得られることがわかった。反対に、年齢が高いほど候補者の顔が笑顔であるほうが得票を得られることがわかった。

本論の構成は以下の通りである。第二節では本論文に関係する先行研究を紹介する。第三節では仮説を提示し、第四節では使用したデータを提示する。第五節では分析結果を記述し、第六節で本論文の結論と今後の展望について述べる。

2. 先行研究

候補者の顔（表情や印象）と選挙の関係に関しては、これまで欧米の政治心理学におけるジャーナルを中心に数多くの研究成果が報告されている。(Ballew and Todorov 2007, Ahler, Citrin, Dougal, and Lenz 2017; Berggren, Jodhal, and Pautvaara 2010; King and Leigh 2009; Praino and Stockemer 2018 他)。例えば、Ahler ら (2017) の研究は、候補者の外見が選挙での投票行動に及ぼす影響を実験的に検証したものである。2012 年のカリフォルニア州下院選挙と全米一般選挙を対象に、写真付き投票用紙を提示することで、有権者が外見的に魅力のある候補者に投票する傾向を明らかにした。結果、外見が優れた候補者が得票率を向上させることが実証され、特に情報量が少ない有権者層において外見

が「ヒューリスティック」、すなわち判断を簡略化するための手がかりとして作用することが示されている。

また、Olivola ら (2010) は、アメリカの選挙において候補者の外見から受ける第一印象が有権者の投票行動にどのように影響を与えるかを検証している。分析では、過去のアメリカの選挙に立候補した候補者の顔写真を収集し、被験者に提示して「能力が高そう」「魅力的」「信頼できそう」などの印象を数値で評価させた。被験者には候補者の政策に関する情報を持たせない状態で評価を行い、純粋に外見の印象のみが測定される。その結果、候補者の顔が「能力が高そう」と評価された場合、実際の選挙では高い得票率を得やすいことが明らかになった。これは候補者の第一印象が有権者の無意識にはたらく偏見によって投票行動が左右されていることが示唆されている。

さらに、Ono ら (2020) は、2013 年と 2016 年の参議院選挙ポスターの候補者 494 人の顔写真の「相対的魅力度」を変数として使用し、候補者の顔の美しさと得票率の関係を分析している。その結果、顔の「相対的魅力度」が 1 ポイント増加すると、得票率が 5.16 ポイント増加するとし、有権者が候補者を選択する際、顔の印象が投票行動に影響を与えることを示している。

我々の研究と直接関連している研究成果としては、Horiuchi ら(2012) の論文を挙げることができる。この研究は、衆議院選挙候補者の笑顔と得票率の関係を分析したものである。Horiuchi らは、オムロン株式会社が開発した OKAO Vision という自動顔認識ソフトを用い、候補者の顔写真から笑顔度を数値化し、得票率との関連を検証した。その結果、笑顔度が 1 ポイント増加すると得票率が 2.3 ポイント増加することを示している。この結果は、候補者の笑顔が候補者の親しみやすさや信頼性を高め、有権者に好印象を与えることを示唆している。特に、笑顔は有権者の心にいい印象を残し、投票行動に影響を及ぼす重要な要素であると結論づけられている。

以上の先行研究をもとに、本論文では 2024 年の衆議院議員総選挙において、候補者の顔の「笑顔度」と「真顔度」が選挙結果に与える影響を分析する。

3. 仮説の提示

本論では、以下の 4 つの仮説を検証する。

仮説 1：選挙ポスター写真が笑顔の新人候補者ほど得票率が高い

仮説 2：選挙ポスター写真が真顔のベテラン候補者ほど得票率が高い

仮説 3：年齢が低い候補者ほど、選挙ポスター写真の「笑顔度」が得票率を高める

仮説 4：年齢が高い候補者ほど、選挙ポスター写真の「真顔度」が得票率を高める

仮説 1 は Horiuchi ら (2012) の研究を踏まえ、選挙ポスターに写る候補者の笑顔が選挙結果に大きな影響を与えることを前提としている。この研究では、笑顔が親しみやすさ

や信頼性を高め、有権者にポジティブな印象を与えることを示しているが、特に新人候補者は、政界での実績が少なく、有権者が候補者を評価する際の判断材料が少ないため、選挙ポスターの印象が重要な役割を果たすと考えられる。新人候補者が笑顔のポスターを使用することで、フレッシュさや親近感を有権者に伝えられる可能性があり、それが得票率に寄与することを仮定している。本仮説では、笑顔が新人候補者にとってより大きな要因であるかを実証的に検証する。

仮説 2 は仮説 1 とは対照的に、ベテラン候補者においては真顔が得票率に影響を与える可能性を提起している。ベテラン候補者は、長年の活動に基づく実績や経験が既に認知されている場合が多い。彼らが真顔のポスターを用いることで、有権者に対して厳格さや信頼感、さらには威厳を感じさせる効果が期待される。特に、ベテラン候補者の場合、柔和な笑顔よりも真顔の方が政治的能力やリーダーシップを印象付けようとするのではないかと。この仮説では、真顔の表情がベテラン候補者の得票率に与える影響を確認できる。

仮説 3 と仮説 4 は仮説 1 と仮説 2 をさらに発展させ、候補者の年齢が表情と得票率の関係性にどのように作用するかを検証するものである。年齢は、候補者が有権者に与える印象に直接的な印象を及ぼす要因とも考えられる。若い候補者は、そのエネルギーや革新性が評価される傾向があり、笑顔のポスターがその魅力を最大限に引き出す可能性がある。一方、高齢の候補者は、経験や信頼感といった要素を重視することが多く、真顔の表情がその特性を強調すると考えられる。仮説 3 では若い候補者が笑顔の表情を選ぶことで得票率が向上することを期待し、仮説 4 では高齢の候補者が真顔を選ぶことで得票率が向上する可能性を検証する。

4. データ

分析に使用するデータは、2024 年第 50 回衆議院議員総選挙で日本全国 289 の小選挙区に設置された選挙ポスターから得た 1084 枚の選挙ポスターを使って分析している。候補者の選挙ポスターは実物を入手するのではなく、ネット上に投稿されたポスターを収集した。

集めたポスター上の候補者の顔の表情を数値化するために、FaceReader という表情解析ソフトを用いた¹。FaceReader は人物の顔写真をもとに、表情や性別、年齢などを測定できるツールであり、表情の「笑顔度 (Happy)」や「真顔度 (Neutral)」を定量化することが可能である。本研究では、こうして得られた数値データを「表情」として扱っている。一方、得票率については「NHK 衆議院総選挙 2024 選挙結果-衆院選-」を使用している²。これにより、各候補者の選挙結果と表情データを結びつけ、両者の関係性を分析した。

従属変数：得票率

¹ <https://www.sophia-scientific.co.jp/human/products/software/facereader/>

² <https://www.nhk.or.jp/senkyo/database/shugin/>

本論では、「表情」が「得票率」に影響を及ぼすかどうかを検証するため、従属変数を「得票率」としている。「得票数」を使用することも可能だが、選挙区ごとに一票の重みに差が生じる可能性があるため、公平性を考慮しここでは「得票率」を使用する。

主要な独立変数：笑顔度相対値(Happy.R)、真顔度相対値(Neutral.R)

従属変数に大きく影響を及ぼす主要な変数として、全国の選挙区で掲載されている選挙ポスターの表情を使用する。本論では FaceReader という表情解析ソフトを使って表情を数値化し、笑顔度(Happy)と真顔度(Neutral)に着目して分析を行う。さらに正確な分析をするため小選挙区ごとに笑顔度、真顔度の平均値を算出し、候補者の笑顔度・真顔度から平均値を引いた笑顔度相対値(Happy.R)、真顔度相対値(Neutral.R)を主要な独立変数として使用する。ここでは 2024 年衆議院議員総選挙にて全国に掲示された選挙ポスター1084枚のうち、表情が判別可能な 1071 名分のデータをもとに分析を行う。

加えて、候補者の「性別」「当選回数」「年齢」「現職か否か」「選挙区ごとの立候補者数」「所属政党」「悲顔度相対値(Sad.R)」「恐怖顔度相対値(Scared.R)」「驚顔度相対値(Surprised.R)」「怒顔度相対値(Angry.R)」「嫌悪顔相対値(Disgusted.R)」「軽蔑顔相対値(Contempt.R)」を従属変数に影響を及ぼす統制変数として含め、今回分析を実施する。「性別」は男性の場合を 0、女性の場合を 1 とした「女性ダミー」を、「現職か否か」に関しては元職・新人の場合を 0、現職の場合を 1 とした「現職ダミー」というようにそれぞれダミー変数を作成して分析を行った。

表 1 は、本論で使用しているデータの記述統計である。表の左から変数名、平均値、最小値、最大値を示しており、N=1071 は候補者数を表している。説明したい変数(=従属変数)である「得票率」は最小値が約 0.3%、最大値が約 85%であることを示しており、立候補者全体の得票率の平均が約 26%であることがわかる。今回の分析対象となる候補者は 25～84 歳の中で分布しており、その平均値は約 54 歳である。さらに、平均値に着目するとその中で女性が約 22%を占め、現職の候補者は候補者全体の約 36%であることがわかる。また、立候補者数に着目すると最小値が 2、最大値が 9 であり平均値が 4.19 であることから、全国の小選挙区の多くが 4 人前後の立候補者であることがわかる。

変数名	平均値	最小値	最大値
得票率	26.37	0.3	85.15
女性ダミー	0.22	0	1
当選回数	1.74	0	18
年齢	54.1	25	84
現職ダミー	0.36	0	1
立候補者数	4.19	2	9
真顔度相対値(Neutral.R)	0	-0.68	0.71
笑顔度相対値(Happy.R)	0	-0.78	0.74
悲顔度相対値(Sad.R)	0	-0.19	0.34
恐怖度相対値(Scared.R)	0	-0.19	0.34
驚顔度相対値(Surprised.R)	0	-0.26	0.5
怒顔度相対値(Angry.R)	0	-0.33	0.61
嫌悪顔相対値(Disgusted.R)	0	-0.16	0.35
軽蔑顔相対値(Contempt.R)	0	-0.29	0.53

表 1：記述統計

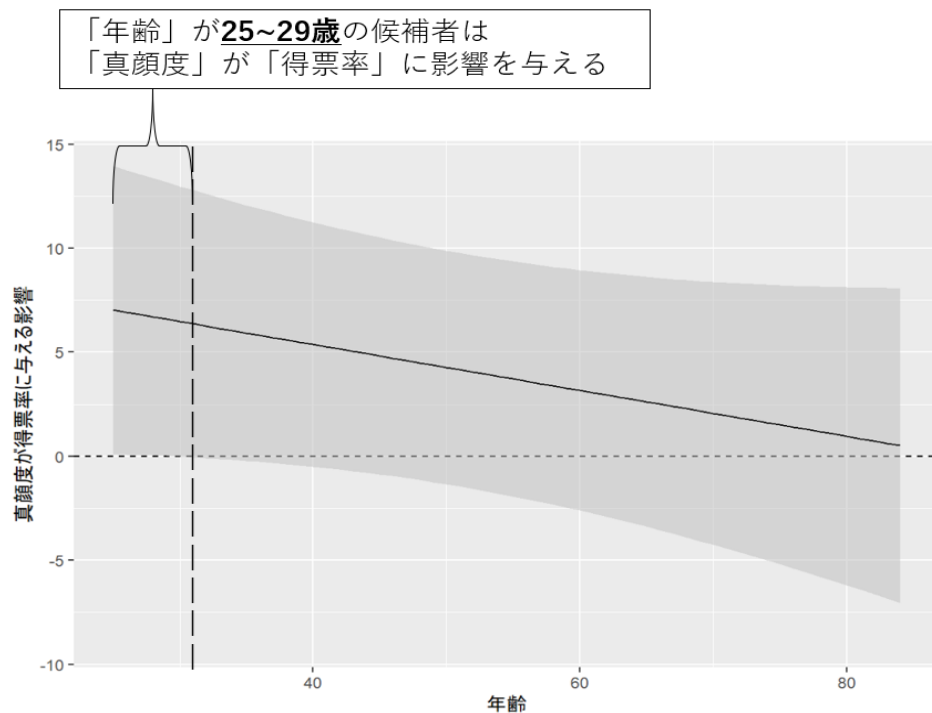
N=1071

本論では候補者の「得票率」は選挙ポスターの「表情」の影響を受けるのか、ということについて分析するにあたって、より厳密な分析を行うために候補者の年齢や性別、当選回数などの要因と6つの顔の表情の相対値を統制変数としてモデルに含めて重回帰分析を実施した。

5. 分析結果

本論では、新人候補者とベテラン候補者を区別する指標として、7つのモデルを使って真顔度相対値と笑顔度相対値が得票率に及ぼす影響は「年齢」「当選回数」「現職か否か」によって変化するのかどうか分析した。しかし、統計的に有意である結果を得られたのは「年齢」のみであった(7つのモデルの分析結果の詳細は Appendix を参照)。

図1は真顔度が得票率に与える影響を年齢ごとに示した図である(分析結果の詳細は Appendix 表2の Model3 を参照)。

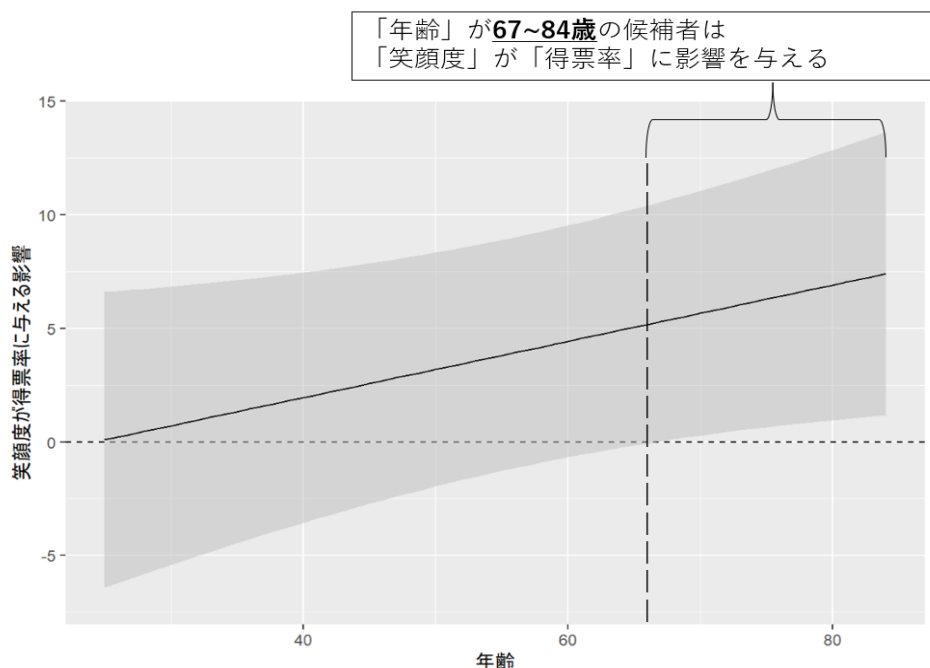


注：直線の周りには 95%の信頼区間が濃い灰色で表示されており、限界効果 0 の横線に触れている箇所は統計的に有意ではないことを表している

図 1 : 「真顔度」と「得票率」の関係：年齢ごと

横軸は「年齢」、縦軸は「真顔度が得票率に与える影響」（＝限界効果）を示している。この結果は候補者の「年齢」が高くなるにつれて、真顔度が得票率に与える影響が減少することを示している。グラフが右肩下がりに減少していることから年齢が低いほど真顔の影響力が強く、年齢が上がるにつれて真顔であることは得票率にマイナスの影響を与える傾向にあることがわかる。つまり、今回の 2024 年に行われた衆議院議員総選挙において、25～29 歳の候補者に限っては年齢が低い候補者ほど選挙ポスターの表情が真顔であることで、より高い得票を得られる傾向があることがわかる。しかし、注意すべきは、実際に影響を与えるのは 25～29 歳の候補者だけであり、この範囲の年齢の候補者であれば、真顔であればより多くの得票を得られるということである。

図 2 は笑顔度相対値が得票率に与える影響を年齢ごとに示した図である(分析結果の詳細は Appendix の表 2 の Model6 を参照)。



注：直線の周りには 95%の信頼区間が濃い灰色で表示されており、限界効果 0 の横線に触れている箇所は統計的に有意ではないことを表している

図 2：「笑顔度」と「得票率」の関係：年齢ごと

横軸は「年齢」、縦軸は「笑顔度が得票率に与える影響」（＝限界効果）を示している。この結果は候補者の「年齢」が高くなるにつれて、笑顔度が得票率に与える影響が増大することを表している。グラフが右肩上がりに増加していることから年齢が低いほど笑顔の影響力が弱く、年齢が上がるにつれて笑顔であることは得票率にプラスの影響を与える傾向にあることがわかる。つまり、今回の 2024 年に行われた衆議院議員総選挙において、67～84 歳の候補者に限っては年齢が高い候補者ほど選挙ポスターの表情が笑顔であることで、より高い得票を得られる傾向があることがわかる。しかし、注意すべきは、実際に影響を与えるのは 67 歳～84 歳の候補者だけであり、この範囲の年齢の候補者であれば、笑顔であればより多くの得票を得られるということである。

6. 結論と今後の展望

本論文では、2024 年度衆議院議員総選挙において全国に掲示されている選挙ポスターに着目し、候補者の「表情」と「得票率」の間には相関関係があるかどうかについて実証分析を試みた。加えて、候補者の「性別」「当選回数」「年齢」「現職か否か」「選挙区ごとの立候補者数」「所属政党」「悲顔度相対値(Sad.R)」「恐怖顔度相対値(Scared.R)」「驚顔度相対値(Surprised.R)」「怒顔度相対値(Angry.R)」「嫌悪顔相対値(Disgusted.R)」「軽蔑顔相対値(Contempt.R)」を「得票率」に関係がある統制変数として含め重回帰分析を行った結果、以下の結果が得られた。第一に、仮説 1 と仮説 2 で予想した新人候補者とベテラン候

補者に関して、「当選回数」や「現職か否か」という要素ごとに分析したが、想定した結果は得られなかった。

第二に、仮説 3 では「年齢が低い候補者ほど、選挙ポスター写真の「笑顔度」が得票率を高める」と予想していたが、若い候補者の選挙ポスターの笑顔度と得票率は関係が認められなかった。むしろ、年齢が低いほど選挙ポスターの写真が「真顔」であるほうが得票率が高いという結果が得られた。ただしこれは 25～29 歳の立候補者に限ってのことであり、30 歳以上の候補者に関しては、同様の結果は得られなかった。30 歳以上の候補者に関しては、年齢が高まるほど真顔が得票率に与える影響が逡減する「傾向がある」という結果が得られた。つまり、統計的に有意とは言えないまでも、年配の候補者の選挙ポスターが真顔だと、票を失う「傾向がある」といえる。

具体例を確認してみよう。図 3 は 2024 年衆議院議員総選挙にて最年少立候補者である東京 15 区に出馬した大空幸星氏と、同年代である京都 3 区に出馬した森干晟氏を比較したものである。



年齢	25歳	28歳
得票率	25.86%	22.04%
真顔度相対値	0.6650	-3.2254
立候補者数	5人	5人

図 3：大空幸星氏と森干晟氏の比較

なるべく同じ条件下で比較できるよう、今回の分析で得られた「25～29 歳の立候補者においては年齢が低いほど真顔であると得票率が高い」という結果を裏付ける一例を示してみる。ここでは、年齢制限を満たすこと、出馬した選挙区の立候補者数が同じであること、どちらも同じ政党に所属していること、という 3 つの条件を満たす立候補者同士を比較している。図 3 の真顔度相対値が示す通り、真顔度相対値がプラスである大空氏は口を閉じているいわゆる「真顔」であるのに対して、真顔度相対値がマイナスである森氏は歯を見

せ「笑顔」であることがわかる。結果として、真顔である大空氏の得票率が 25.86%であるのに対して、笑顔である森氏は 22.04%と大空氏よりも 3.82%低い得票率となっている。

第三に、仮説 4 では「年齢が高い候補者ほど、選挙ポスターの写真が「真顔度」が得票率を高める」と予想していたが、年齢が高い候補者の選挙ポスターの真顔度と得票率は関係が認められなかった。むしろ、年齢が高いほど選挙ポスターの写真が「笑顔」であるほうが得票率が高いという結果が得られた。ただしこれは 67 歳から 84 歳の立候補者に限ったことであり、66 歳以下の候補者に関しては、同様の結果は得られなかった。66 歳以下の候補者に関しては、年齢が高まるほど真顔が得票率に与える影響が増える「傾向がある」という結果が得られた。つまり、統計的に有意とは言えないまでも、若い候補者の選挙ポスターが笑顔だと、票を失う「傾向がある」といえる。

具体例を確認してみよう。図 4 は 2024 年衆議院議員総選挙にて最高齢立候補者である福岡 8 区に出馬した麻生太郎氏と、同年代である大分 2 区に出馬した衛藤征士郎氏を比較したものである。



年齢	84歳	83歳
得票率	56.97%	18.68%
笑顔度相対値	0.283	-0.517
立候補者数	3人	3人

図 4：麻生太郎氏と衛藤征士郎氏の比較

図 3 と同様、今回の分析で得られた「67 歳～84 歳の立候補者においては年齢が高いほど笑顔であると得票率が高い」という結果を裏付ける一例である。ここでは、年齢制限を満たすこと、出馬した選挙区の立候補者数が同じであること、どちらも同じ政党に所属していること、という 3 つの条件を満たす立候補者同士を比較している。図 4 の笑顔度相対値が示す通り、笑顔度相対値がプラスである麻生氏は歯を見せ「笑顔」であるのに対して、笑顔度相対値がマイナスである衛藤氏は口を閉じ「真顔」であることがわかる。結果とし

て、笑顔である麻生氏の得票率が 56.97%であるのに対して、真顔である衛藤氏は 18.68%と麻生氏よりも 38.29%低い得票率となっている。ただし、得票数が変化する要因として表情だけではないため、あくまで今回の分析で得られた「傾向がある」という結果を裏付ける一例である。

本論では、選挙ポスターの候補者の表情が得票率に影響を及ぼすかどうかについて分析を行ったが、今回の分析結果に加えて投票に行く人の 3 人に 1 人が選挙ポスターを重視という調査(読売 IS 合同調査³より)からも選挙ポスターが得票数に及ぼす影響は大きいといえる。

本論では 2024 年衆議院議員総選挙を取り上げて分析を試みたが、今後は 2024 年度以外の年度に実施された総選挙のデータや参議院議員選挙のデータを使ってさらに詳細かつ多様な分析を重ね検証することが求められる。

Appendix

表 2 は本論で分析を行った 7 つのモデルの分析結果の詳細である。それぞれの変数が「得票率」にどのくらい影響を及ぼすかが数値で表されている。「Neutral.R:previous」「Neutral.R:age」「Neutral.R:inc」「Happy.R:previous」「Happy.R:age」「Happy.R:inc」は交差項であり、真顔度と笑顔度が得票率に及ぼす影響を「previous(=当選回数)」「age(=年齢)」「inc(=現職ダミー)」ごとに分析したものである。ただし、「当選回数」と「年齢」は連続変数であるのに表 2 ではそれぞれ 0 の場合のみの結果しか出力されていないため、それぞれの値において得票率に与える影響がどのように変化するか(これが限界効果)についても考慮する必要がある。これを「年齢」について視覚化したグラフが図 1 と図 2 である。

³ https://seiji-yama.jp/research/investigation/inv_37.html

得票率							
	Model1	Model2	Model3	Model4	Model5	Model6	Model7
Neutral.R	4.139 (2.865)	4.378 (2.935)	9.791** (4.943)	2.928 (2.958)	4.115 (2.864)	3.788 (2.868)	4.090 (2.864)
Happy.R	3.975 (2.597)	3.962 (2.598)	3.761 (2.600)	4.038 (2.595)	3.301 (2.654)	-3.007 (4.551)	4.768* (2.668)
Sad.R	13.818* (7.813)	13.823* (7.816)	14.256* (7.816)	14.188* (7.810)	14.007* (7.813)	14.580* (7.814)	13.951* (7.811)
Scared.R	-14.185* (8.132)	-14.139* (8.136)	-14.220* (8.128)	-14.203* (8.126)	-14.223* (8.130)	-14.238* (8.122)	-13.793* (8.135)
Angry.R	3.180 (3.749)	3.192 (3.750)	2.918 (3.752)	2.967 (3.748)	3.186 (3.748)	2.178 (3.782)	3.017 (3.750)
Surprised.R	-6.651 (4.261)	-6.679 (4.263)	-6.712 (4.259)	-6.667 (4.258)	-6.667 (4.260)	-6.743 (4.256)	-6.722 (4.260)
Disgusted.R	2.762 (7.015)	2.586 (7.033)	2.217 (7.022)	3.254 (7.016)	2.216 (7.027)	2.340 (7.010)	3.150 (7.019)
Contempt.R	1.129 (4.522)	1.183 (4.526)	1.157 (4.520)	0.807 (4.522)	1.374 (4.525)	1.169 (4.516)	0.836 (4.526)
立候補者数	-3.367*** (0.218)	-3.368*** (0.218)	-3.358*** (0.218)	-3.358*** (0.218)	-3.366*** (0.218)	-3.353*** (0.218)	-3.367*** (0.218)
当選回数	1.043*** (0.146)	1.052*** (0.148)	1.057*** (0.146)	1.014*** (0.147)	1.075*** (0.148)	1.067*** (0.146)	1.023*** (0.146)
年齢	-0.071*** (0.025)	-0.072*** (0.025)	-0.074*** (0.025)	-0.069*** (0.025)	-0.073*** (0.025)	-0.077*** (0.025)	-0.070*** (0.025)
現職ダミー	11.425*** (0.829)	11.411*** (0.831)	11.403*** (0.829)	11.553*** (0.832)	11.352*** (0.831)	11.370*** (0.829)	11.528*** (0.833)
女性ダミー	1.046 (0.646)	1.074* (0.650)	1.027 (0.645)	0.952 (0.648)	1.121* (0.648)	1.028 (0.645)	0.986 (0.647)
Neutral.R:previous		-0.133 (0.351)					
Neutral.R:age			-0.110 (0.079)				
Neutral.R:inc				3.314 (2.036)			
Happy.R:previous					0.342 (0.279)		
Happy.R:age						0.124* (0.066)	
Happy.R:inc							-2.135 (1.655)
Constant	28.171*** (2.526)	28.214*** (2.530)	28.275*** (2.526)	28.046*** (2.526)	28.301*** (2.528)	28.400*** (2.526)	28.110*** (2.526)
Observations	1,071	1,071	1,071	1,071	1,071	1,071	1,071
R ²	0.797	0.797	0.797	0.797	0.797	0.797	0.797
Adjusted R ²	0.792	0.792	0.792	0.793	0.792	0.793	0.792
Residual Std. Error	8.132 (df = 1047)	8.135 (df = 1046)	8.128 (df = 1046)	8.125 (df = 1046)	8.130 (df = 1046)	8.122 (df = 1046)	8.129 (df = 1046)
F Statistic	178.370*** (df = 23; 1047)	170.804*** (df = 24; 1046)	171.178*** (df = 24; 1046)	171.318*** (df = 24; 1046)	171.084*** (df = 24; 1046)	171.490*** (df = 24; 1046)	171.116*** (df = 24; 1046)
Note:						p<0.1; p<0.05; p<0.01	

表 2：分析結果の詳細

注

1. 今回の分析で使⽤した表情解析ソフトウェア「**FaceReader**」についての詳細
2. 今回の分析で使⽤した選挙データの引用元
3. 当該サイトでは、万人に情報を届け、目にしやすいという点においても選挙ポスターは有権者にとって有⽤なツールであることがわかることも述べている

参考文献目録

(日本語文献)

- ・衆議院選挙 2024 特設サイト「選挙結果」

<https://www.nhk.or.jp/senkyo/database/shugiin/>(参照 2024-11-07)

- ・政治山「第 37 回政治山調査「投票に行く人の 3 人に 1 人が選挙ポスターを重視」読売 IS 合同調査より」https://seijiyama.jp/research/investigation/inv_37.html(参照 2024-12-7)

(外国語文献)

- ・ Ballew, Charles C. and Alexander Todorov. 2007. “Predicting Political Elections from Rapid and Unreflective Face Judgments.” *Proceedings of the National Academy of Sciences* 104(46): 17948-17953.

- ・ Berggren, Niclas, Henrik Jordahl, and Panu Poutvaara. 2010. “The looks of a Winner: Beauty and Electoral Success.” *Journal of Public Economics* 94(1-2): 8-15.

- ・ Daniel S. Hamermesh Jeff E. Biddle. 1993.”BEAUTY AND THE LABOUR MARKET” [nber_w4518.pdf](#)

- ・ Douglas J. Ahler, Jack Citrin, Michael C. Dougal, Gabriel S. Lenz. 2017. ”Face Value? Experimental Evidence that Candidate Appearance Influences Electoral Choice” *Political Behavior* 39(1):77-102.<https://escholarship.org/uc/item/62b082sm>

- ・ King, Amy, and Andrew Leigh. 2009. “Beautiful Politicians.” *Kyklos* 62(4): 579-593.

- ・ Olivola, Christopher Y., and Alexander Todorov. 2010b. “Elected in 100 milliseconds: Appearance-Based Trait Inferences and Voting.” [s10919-009-0082-1.pdf](#)

- ・ Ono Yoshikuni, Asano Masahiko. 2020. “Why Beauty Matters: Candidates' Facial Appearance and Electoral Success”<https://www.rieti.go.jp/jp/publications/dp/20e072.pdf>

- ・ Ozono Hiroki, Motoki Watanabe, Sakiko Yoshikawa, Satoshi Nakashima, Nicholas O. Rule, Nalini Ambady, and Reginald B. Adams Jr. 2010. “What’s in a Smile? Cultural Differences in the Effects of Smiling on Judgements of Trustworthiness.” *Letters on Evolutionary Behavioral Science* 1(1): 15-18.

- ・ Praino, Rodrigo, Daniel Stockemer, and James Ratis. 2014. “Looking Good or Looking Competent? Physical Appearance and Electoral Success in the 2008 Congressional Elections.” *American Politics Research* 42(6): 1096-1117.

- Sebastian Jäckle, Thomas Metz. 2019. “Schönheit ist überall ein gar willkommener Gast” https://www.ssoar.info/ssoar/bitstream/handle/document/71411/ssoar-zparl-2019-3-jackle_et_al-Schonheit_ist_uberall_ein_gar.pdf?sequence=1
- Yusaku Horiuchi, Tadashi Komatsu, and Fumio Nakaya. 2012. “Should Candidates Smile to Win Elections? An Application of Automated Face Recognition Technology” *Political Psychology* 33(6): 925-933.